

収穫後はすぐに稲わら、籾がらをすき込みましょう！



- ✦ なるべく早め、遅くても10月中旬までに、浅く（5～10cm）すき込むことで、腐熟が進みます。
- ✦ ケイ酸や有機物を多く含む稲わら、籾がらを連用すると、稲の安定した生育につながります。

秋すき込みのメリット



土壌の有機質が増える 稲わらが分解され、土に栄養が供給される



初期生育が安定 翌年のガス湧きが軽減でき、初期生育がスムーズ



根張りが良くなる ケイ酸により根が深く広がり、倒伏しにくくなる

- ✦ ケイ酸、リン酸、鉄が不足しているほ場では、土づくり資材や堆肥を積極的に施用しましょう。

JA が扱う資材例（10a 当たり施用量）

不足している資材	ケイ酸	ニュー米スター（30kg）
	リン酸	苦土重焼燐（20kg）
	鉄	おぐに土づくり肥料（30kg）
	全般に不足	柏崎専用土づくり肥料（40～60kg）

土壌特性は柏崎地域土づくりマップを参考にしてください。

※ 普及センターHP掲載のマップはこちら



- ✦ 高低差が大きいほ場では、水平になるように地ならしも行いましょう。

**来年の猛暑に備えて
今から土づくり！**

柏崎地域農業振興協議会

【お問い合わせ先】 柏崎農業普及指導センター（0257）21-6263
かしわざき営農センター 21-0220 南部営農センター 41-6087 北部営農センター 45-2258